

平成22年9月期 第1四半期決算短信

平成22年2月8日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 ディーワンダーランド
 コード番号 9611 URL <http://www.dwonderland.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 脇村 正紀
 (氏名) 堀内 治芳

TEL 03-5421-6111

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年9月期第1四半期の連結業績(平成21年10月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年9月期第1四半期	3,375	11.5	441	35.9	374	52.6	203	—
21年9月期第1四半期	3,026	△5.1	324	△26.4	245	△30.6	△109	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年9月期第1四半期	5.63	—
21年9月期第1四半期	△3.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年9月期第1四半期	16,324	8,206	50.3	226.55
21年9月期	17,617	7,984	45.3	220.43

(参考) 自己資本 22年9月期第1四半期 8,206百万円 21年9月期 7,984百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年9月期	—				
22年9月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年9月期の連結業績予想(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	6,609	12.2	699	25.8	568	43.9	245	—	6.79
通期	13,328	9.3	1,413	9.5	1,154	18.6	454	193.8	12.55

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 有

詳細は、4ページ【定性的情報、財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年9月期第1四半期	36,223,850株	21年9月期	36,223,850株
② 期末自己株式数	22年9月期第1四半期	694株	21年9月期	633株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年9月期第1四半期	36,223,187株	21年9月期第1四半期	36,223,283株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、内外の政府主導による景気刺激策や在庫調整に伴い一部に景気持ち直しの兆しは見られるものの自律性に乏しく、全体としては設備投資の減速、雇用情勢の悪化、個人消費の低迷等、依然として先行き不透明のまま推移いたしました。

中古品小売業界におきましては、景気低迷による消費者の節約志向が強くなり、業種・業態を問わず低価格化競争が激化し低額品の需要が伸張した反面、高額品や嗜好品の需要は減退しております。更に、インターネット等による中古品売買の普及・拡大が拍車を掛け買取・販売競争は激化の一途を辿っております。

このような状況におきまして、当グループ大黒屋の質屋、古物売買業は、積極的な広告宣伝を展開したことにより既存店において商品単価減に伴い顧客単価は減少したものの顧客数を大幅に伸ばすことができ、前期末開設した銀座店も売上に寄与し、商品売上高は計画通り推移し増収を確保することができました。また、商品の買取仕入については、個人消費の減退や商品価格の下落の影響により減少が続いておりましたが、当四半期においては、この減少に歯止めがかかり、買取仕入金額は前年同四半期比において増加いたしました。利益面につきましては、広告宣伝費及び地代家賃等戦略的な経費が増加したものの、売上総利益の確保による売上総利益率の改善により増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は3,375百万円（前年同四半期比11.5%増）、連結営業利益は441百万円（前年同四半期比35.9%増）、連結経常利益は374百万円（前年同四半期比52.6%増）、連結純利益は203百万円（前年同四半期比313百万円増）の増収増益決算となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債、純資産の状況

当第1四半期末における総資産につきましては、前事業年度末と比較し1,292百万円減少して16,324百万円となりました。この主な要因は現預金1,096百万円並びに繰延税金資産178百万円が減少したことによるものであります。

負債につきましては、前事業年度末と比較して1,514百万円減少して8,118百万円となりました。この主な要因は借入金1,474百万円を返済したことによるものであります。

純資産は、前事業年度末と比較し、221百万円増加して8,206百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、借入金の返済による支出が1,474百万円となる一方、税金等調整前四半期純利益が467百万円増加し、当第1四半期連結累計期間には1,096百万円の減少となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は383百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益の計上467百万円、のれん償却額が140百万円があるものの、売上債権が118百万円及びたな卸資産が49百万円それぞれ増加し、法人税等の支払54百万円があったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において投資活動の結果支出した資金は5百万円となりました。これは主に、固定資産の取得による支出10百万円と差入保証金の払戻し5百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において財務活動の結果支出した資金は1,474百万円となりました。これは24百万円の短期借入金および1,450百万円の長期借入金を返済したことによるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年9月期通期の連結業績予想につきましては、平成21年11月13日に発表いたしました業績予想から変更はございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

税金費用の計算方法の変更

従来、法人税等の納付税額の算定に関して、法定実効税率をベースとした年間見積実効税率を用いて計算するなど四半期特有の会計処理を採用していましたが、四半期会計期間の税金費用をより適切に計算することを目的として、第1四半期連結会計期間より年度決算と同様の原則的な会計処理に変更しております。なお、この変更による損益への影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,589,526	2,685,606
売掛金	287,575	189,443
たな卸資産	2,410,615	2,361,343
繰延税金資産	98,943	277,776
営業貸付金	1,522,898	1,502,846
その他	51,477	57,970
貸倒引当金	△5,457	△6,583
流動資産合計	5,955,579	7,068,404
固定資産		
有形固定資産	741,512	752,046
無形固定資産		
のれん	9,105,357	9,245,440
その他	36,797	46,918
無形固定資産合計	9,142,154	9,292,358
投資その他の資産		
投資その他の資産	488,241	506,908
貸倒引当金	△2,880	△2,640
投資その他の資産合計	485,361	504,268
固定資産合計	10,369,028	10,548,674
資産合計	16,324,608	17,617,078
負債の部		
流動負債		
買掛金	11,276	11,679
短期借入金	—	24,000
1年内返済予定の長期借入金	600,000	600,000
未払法人税等	86,818	57,605
賞与引当金	26,568	68,440
ポイントカード引当金	85,737	145,010
その他	115,772	84,522
流動負債合計	926,174	991,257
固定負債		
長期借入金	7,150,000	8,600,000
退職給付引当金	25,340	24,498
その他	16,600	16,600
固定負債合計	7,191,940	8,641,098
負債合計	8,118,114	9,632,356

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,000,000	4,000,000
資本剰余金	2,133,292	2,133,292
利益剰余金	2,075,404	1,852,510
自己株式	△609	△605
株主資本合計	8,208,087	7,985,197
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,594	△475
評価・換算差額等合計	△1,594	△475
純資産合計	8,206,493	7,984,722
負債純資産合計	16,324,608	17,617,078

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	3,026,513	3,375,729
売上原価	2,007,096	2,217,546
売上総利益	1,019,417	1,158,182
販売費及び一般管理費	694,756	716,881
営業利益	324,660	441,301
営業外収益		
受取保険金	2,186	—
その他	8,350	6,774
営業外収益合計	10,537	6,774
営業外費用		
支払利息	88,420	73,194
その他	1,099	55
営業外費用合計	89,520	73,250
経常利益	245,677	374,825
特別利益		
ポイントカード引当金戻入益	—	59,272
養老保険解約益	—	33,745
その他	—	933
特別利益合計	—	93,951
特別損失		
固定資産除却損	—	61
投資有価証券評価損	2,460	999
訴訟損失引当金繰入額	280,000	—
特別損失合計	282,460	1,061
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△36,782	467,714
法人税、住民税及び事業税	72,608	83,754
法人税等調整額	—	179,966
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△109,390	203,993

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△36,782	467,714
減価償却費	26,133	31,610
のれん償却額	140,082	140,082
養老保険解約益	—	△33,745
貸倒引当金の増減額(△は減少)	294	△885
賞与引当金の増減額(△は減少)	△37,193	△41,872
ポイントカード引当金の増減額(△は減少)	31,836	△59,272
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△6,014	842
訴訟和解金	280,000	—
受取利息及び受取配当金	△370	△38
支払利息	88,420	73,194
固定資産除却損	—	61
投資有価証券評価損益(△は益)	2,460	999
売上債権の増減額(△は増加)	63,316	△118,183
たな卸資産の増減額(△は増加)	240,029	△49,272
仕入債務の増減額(△は減少)	322	△402
未払金の増減額(△は減少)	△20,785	7,592
その他	△58,427	25,320
小計	713,323	443,746
利息及び配当金の受取額	370	38
利息の支払額	△85,384	△71,499
養老保険解約による収入	—	66,000
法人税等の支払額	△253,281	△54,541
営業活動によるキャッシュ・フロー	375,028	383,744
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△5,413	△10,818
投資有価証券の取得による支出	△7	△4
差入保証金の回収による収入	—	5,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,420	△5,822
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△5,000	△24,000
長期借入金の返済による支出	△150,000	△1,450,000
自己株式の取得による支出	—	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△155,000	△1,474,002
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	214,607	△1,096,080
現金及び現金同等物の期首残高	1,908,972	2,685,606
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,123,580	1,589,526

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第1四半期連結累計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

	質屋、古物 販売業 (千円)	不動産賃貸事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高	3,373,867	1,824	38	3,375,729	—	3,375,729
営業費用	2,903,725	247	—	2,903,973	30,455	2,934,428
営業利益	470,141	1,576	38	471,756	△30,455	441,301

(注) 1. 事業の区分方法

事業は、商品等の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主な商品・事業内容等

事業区分	主要商品・事業内容等
質屋、古物販売業	中古ブランド品の買取及び商品販売、質屋営業法に基づく事業
不動産賃貸事業	商業ビル・駐車場管理業
その他の事業	ゲームソフトロイヤリティの受取り

〔所在地別セグメント情報〕

当第1四半期連結累計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

〔海外売上高〕

当第1四半期連結累計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

監理銘柄及び整理銘柄に関する規則第3条第1号aの(i)(株券上場廃止基準の取扱い1.(8)fに定める猶予期間の最終日までに株券上場審査基準に準じてジャスダック証券取引所が定める基準に適合することができない場合に該当するとして、平成21年10月1日から、当社株式が監理銘柄(確認中)に指定されておりました。しかし、当社では、ジャスダック証券取引所への新規上場基準に準じた審査に係る申請をするべく鋭意努力してまいりましたが、申請に係る書類等について関係各署と協議の結果、平成21年9月期有価証券報告書を提出した平成21年12月28日から起算して8日目(休業日を除く)である平成22年1月8日に当該申請ができないこととなり、当社株式は、ジャスダック証券取引所において平成22年1月8日付にて整理銘柄に指定され、平成22年2月9日付にて上場廃止となる予定です。